

未定稿

白石町人口ビジョン

令和 7 年 3 月改訂

佐賀県白石町

目 次

はじめに	1
1. 人口の動向	2
(1) 時系列による人口動向分析	2
(2) 年齢階級別の人口動向分析	5
(3) 地域間の人口移動の状況	6
(4) 合計特殊出生率の推移	9
2. 将来人口の推計と分析	10
(1) 将来人口推計と分析	10
3. 人口の将来展望	12
(1) 現状と課題の整理	12
(2) 目指すべき将来の方向	12
(3) 将来展望	13

はじめに

日本の人口減少は平成 20 年（2008 年）から始まっていますが、白石町の人口減少は昭和 30 年代から続いています。

将来推計人口を見ると、小学校区別で差はあるものの、いずれも年少人口と生産年齢人口が著しく減少し、ほとんどの地域において高齢化率が上昇する見込みです。人口が減少することで将来的な地域の存続や、行政サービスの確保が困難になることが懸念されます。人口減少は地域の存亡に関わる問題であり、今後のまちづくりのあり方などについて、改めて人口推計を土台として考える必要があります。

地区の将来像やこれからのまちのあり方、政策の方向性を考えるにあたっては、下記のとおり、人口推計・シミュレーション結果を基盤とするとともに、それぞれの地域に暮らす住民の方々と問題意識や目標を共有し、課題解決に向けて協働することが重要です。

①「人口は地域の暮らし・まちを形づくる基盤」

地域の将来や目指す姿を考えるうえで、人口はすべての基礎データであり、地方創生の主役である住民の方々にも現状や課題を理解しやすい形で示す必要があります。

②「定住の基盤は地元（日常の生活圏域）」

定住を受け止める基盤は日常の生活圏であり、行政区単位での現状分析や具体的な対策の提示が求められます。

③「人口減少対策に対する当事者意識の醸成」

行政区別の課題や可能性を踏まえるとともに、住民の意見を反映した目標を設定するなど、住民の方々が当事者意識を持って理解し共有し行動することが必要です。

地方創生に向けた取組を着実に推進するためには、人口減少をはじめとする諸課題に地域が一体となって取り組むとともに、白石町としても人と暮らしの両面において実効性の高い政策・施策を検討・実施していくことが求められます。

このようなことから、「白石町人口ビジョン」の改訂を行いました。

白石町人口ビジョンの対象期間は、令和 47（2065）年までとします。

Ⅰ. 人口の動向

（Ⅰ）時系列による人口動向分析

Ⅰ）時系列による人口動向分析及び年齢3区分人口の推移

図1に、総人口と年齢3区分の推移、図2に1990年、2020年、2050年における人口ピラミッドを示します。

人口は、令和2（2020）年10月に行われた国勢調査では22,051人でした。国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）が令和5年（2023）年12月に公表した推計によると、今後も人口は減少を続け、令和22（2040）年には15,557人、令和27（2045）年には14,043人と、1万5千人を割り込む推計がされています。

年齢3区分別の人口をみると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は、ともに減少傾向にあります。老年人口は増加傾向にあります。令和7（2025）年には減少に転じると推計されています。

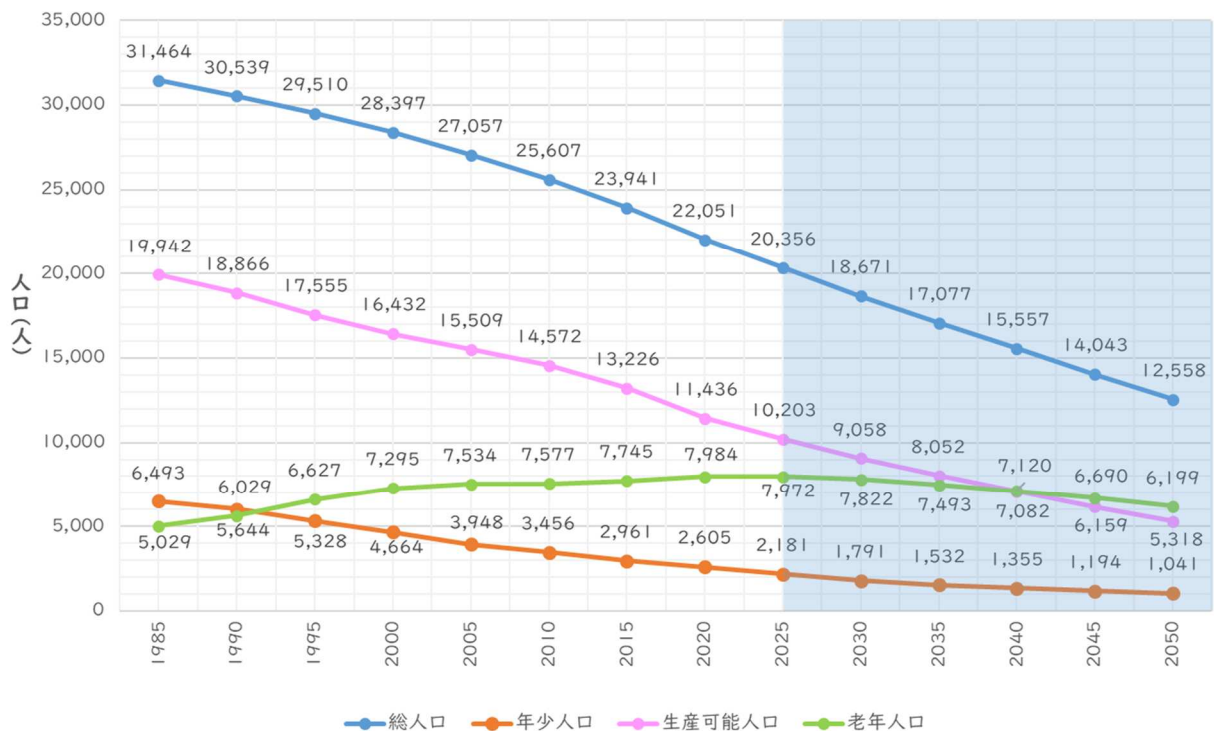
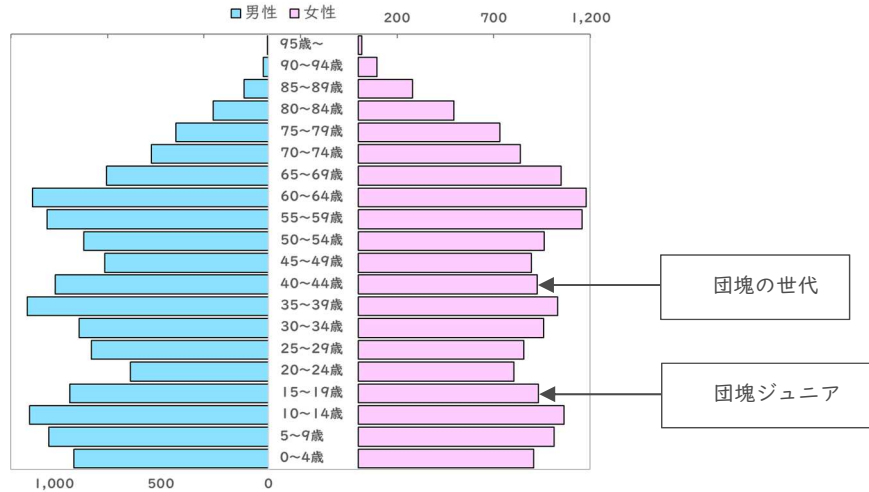


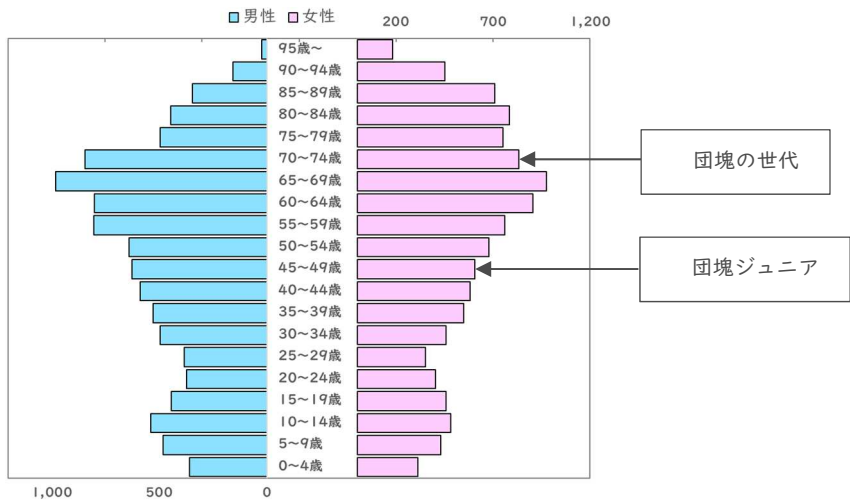
図1 総人口、年齢3区分の推移

出典：2020年までは国勢調査結果、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

1990 年



2020 年



2050 年

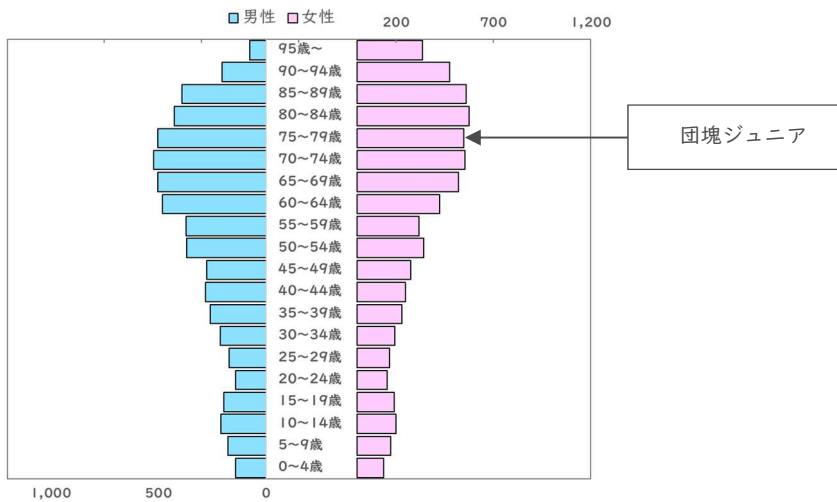


図2 年齢3区分別人口の推移（ピラミッド図）

出典：2020 年までは国勢調査結果、2025 年以降は国立社会保障人口問題研究所の推計

2) 出生・死亡、転入・転出の推移

図3、表1に出生・死亡数、転入・転出数の推移を示します。出生数は平成12(2000)年以降、減少傾向にあり、死亡者数は増減を繰り返しながら毎年300人台で推移しています。また、死亡数が出生数を上回る自然減が続いています。

転入・転出の動きは、平成12(2000)年以降、転出が転入を上回る転出超過となっており、直近の社会増減(転入数－転出数)はマイナスとなっています。

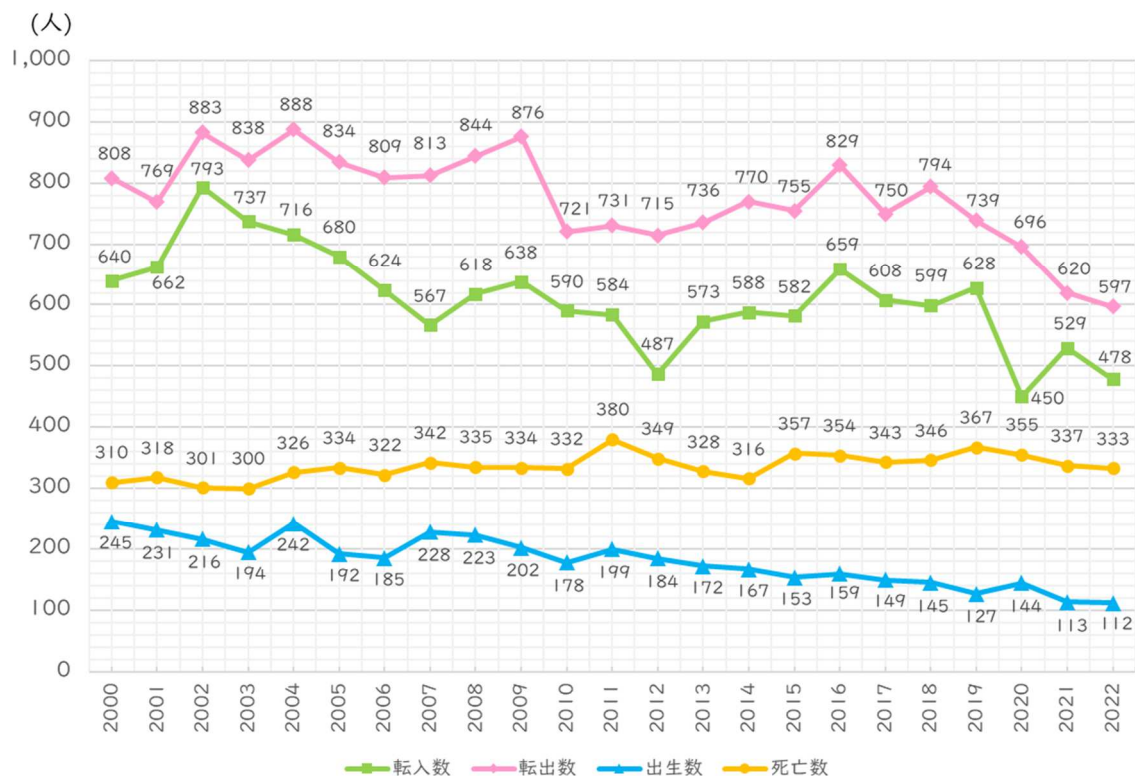


図3 出生・死亡数、転入・転出数の推移

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

表1 出生・死亡数、転入・転出数の推移

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
社会増減	転入	680	624	567	618	638	590	584	487	573	588
	転出	834	809	813	844	876	721	731	715	736	770
	増減	-154	-185	-246	-226	-238	-131	-147	-228	-163	-182
自然増減	出生	192	185	228	223	202	178	199	184	172	167
	死亡	334	322	342	335	334	332	380	349	328	316
	増減	-142	-137	-114	-112	-132	-154	-181	-165	-156	-149
増減	合計	-296	-322	-360	-338	-370	-285	-328	-393	-319	-331

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
社会増減	転入	582	659	608	599	628	450	529	478	535
	転出	755	829	750	794	739	696	620	597	637
	増減	-173	-170	-142	-195	-111	-246	-91	-119	-101
自然増減	出生	153	159	149	145	127	144	113	112	110
	死亡	357	354	343	346	367	355	337	333	393
	増減	-204	-195	-194	-201	-240	-211	-224	-221	-283
増減	合計	-377	-365	-336	-396	-351	-457	-315	-340	-384

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

「2012年までは年度集計(4月～3月)、2013年からは年集計(1月～12月)」

(2) 年齢階級別の人口動向分析

1) 年齢階級別の人口移動の状況

図4、表2に年齢階級別の人口動態の状況を示します。2015年～2023年における年齢階級別の人口移動では、10歳代～20歳代、60歳以上で転出超過傾向、0歳代、50歳代で転入超過傾向となっています。それ以外の年代は、転出超過になったり転入超過になったりしながら推移しています。

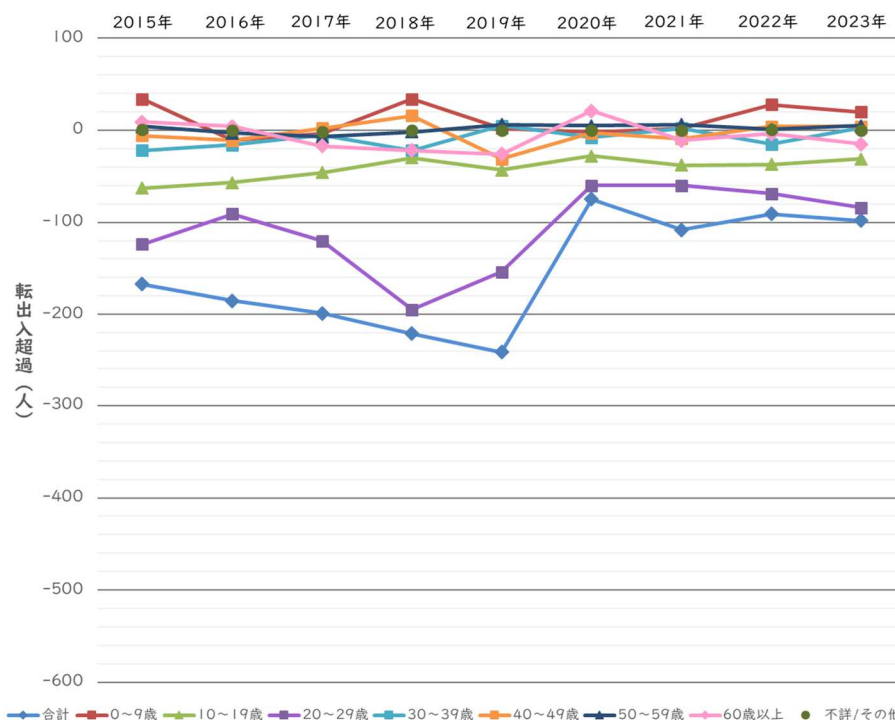


図4 年齢階級別の人口動態の状況

出典：住民基本台帳人口移動報告

表2 年齢階級別の人口動態の状況

	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
合計	535	702	453	638	471	670	512	733	422	663
0～9歳	104	70	62	73	78	82	83	49	61	59
10～19歳	31	94	30	87	38	84	39	69	23	66
20～29歳	158	282	141	232	137	257	147	342	129	283
30～39歳	103	125	99	115	111	116	109	131	104	99
40～49歳	50	56	36	47	41	39	58	42	27	58
50～59歳	35	31	29	32	26	33	28	30	33	27
60歳以上	53	44	56	52	40	57	48	70	45	71
不詳/その他	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
合計	513	588	464	572	503	594	527	625
0～9歳	52	54	49	47	62	34	69	49
10～19歳	39	67	30	68	36	73	40	71
20～29歳	172	232	174	234	158	227	188	272
30～39歳	100	108	100	98	108	123	126	123
40～49歳	46	49	32	41	48	44	30	26
50～59歳	42	37	31	25	30	29	26	21
60歳以上	62	41	48	59	60	64	48	63
不詳/その他	0	0	0	0	1	0	0	0

出典：住民基本台帳人口移動報告

(3) 地域間の人口移動の状況

1) 地域ブロック別の人口移動

白石町の人口移動の状況では、いずれの地域についても転出超過となっています。

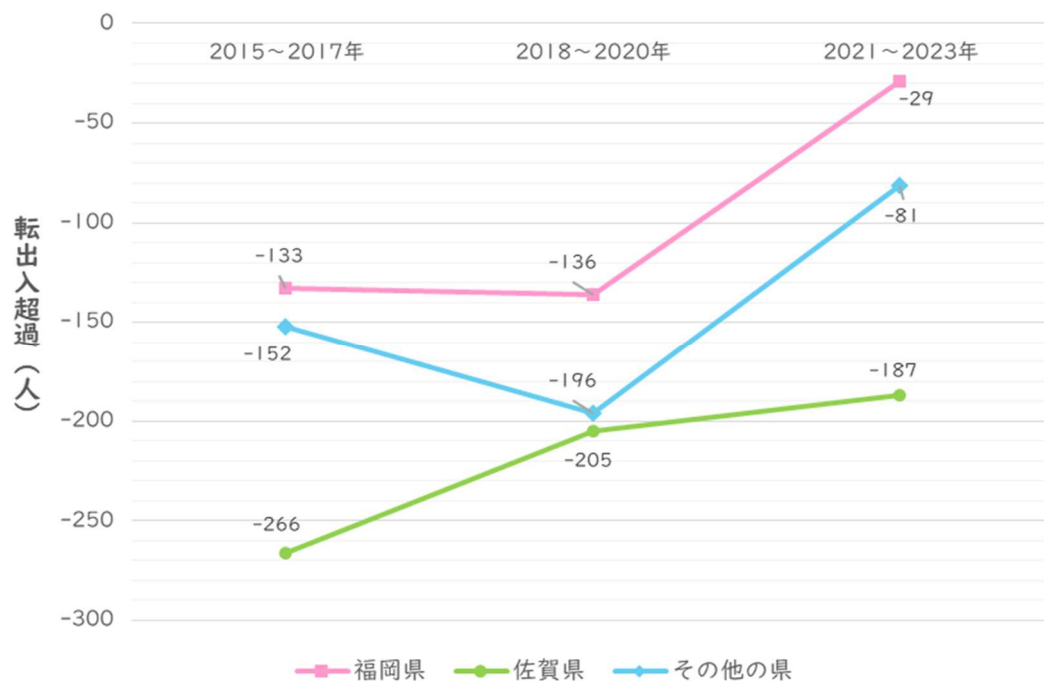


図6 県別の人口移動の状況（白石町）

出典：住民基本台帳人口移動報告

図7、表3に福岡県、佐賀県内、市町村別の人口移動の状況を示します。白石町の転出入状況をみると、佐賀県内では佐賀市への転出入が最も多く、次いで、小城市や武雄市、鹿島市への転出入が多くなっています。

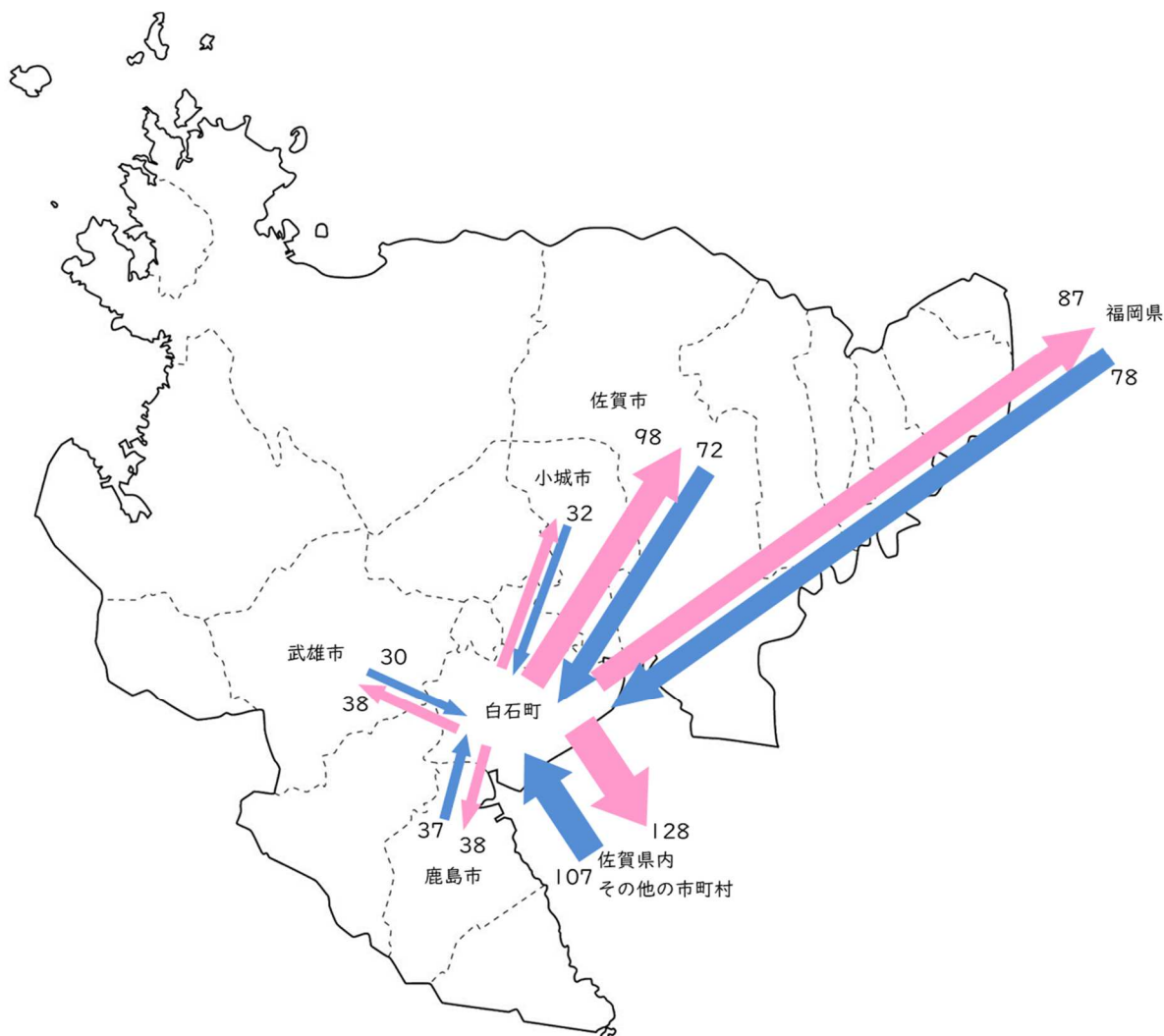


図7 福岡県、佐賀県内、市町村別の人口移動の状況（白石町）

出典：住民基本台帳人口移動報告

表3 福岡県、佐賀県内、市町村別の人口移動の状況（白石町）

		福岡市	福岡県内 その他の 市町村	佐賀市	武雄市	鹿島市	小城市	佐賀県内 その他の 市町村
転入	2021	37	28	62	37	24	29	112
	2022	42	50	73	30	49	31	102
	2023	33	44	81	22	38	37	106
	3か年平均	37	41	72	30	37	32	107
転出	2021	53	48	97	40	41	31	116
	2022	36	30	115	41	36	43	135
	2023	53	43	81	32	37	42	133
	3か年平均	47	40	98	38	38	39	128
過去3か年転出入状況		-10	1	-26	-8	-1	-7	-21

出典：住民基本台帳人口移動報告

2) 性別・年齢階級別の転入・転出の動向

①転入状況

図 8 に、5 歳階級別の転入数の状況を示します。転入は、男性は 25～29 歳が最も多い 116 人、女性は 20～24 歳が最も多い 169 人となっています。

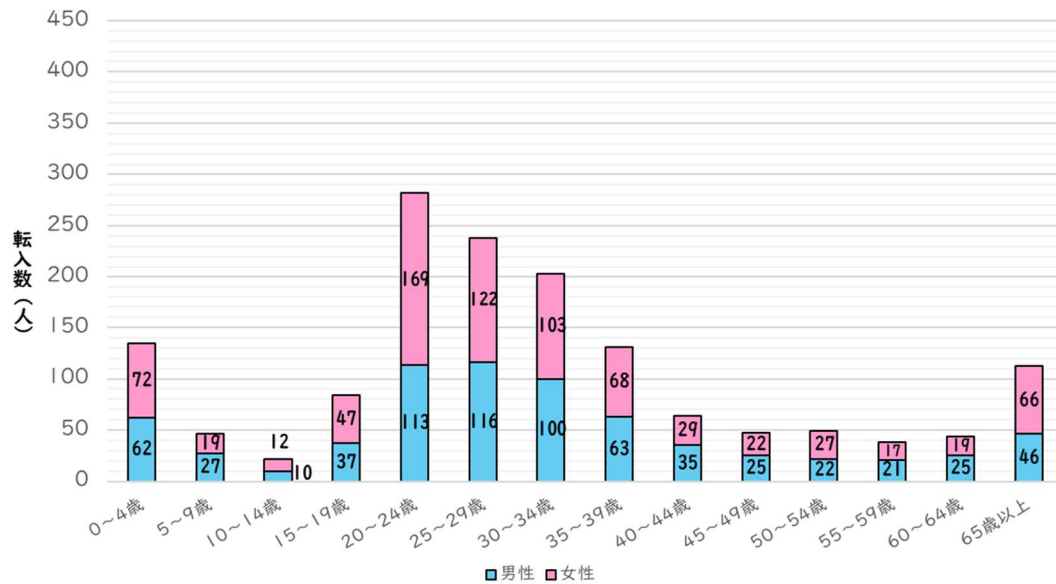


図 8 5 歳階級別転入数の状況

②転出状況

図 9 に、5 歳階級別の転出数の状況を示します。転出は、男女ともに 20～24 歳が最も多く、男性は 185 人、女性は 219 人となっています。

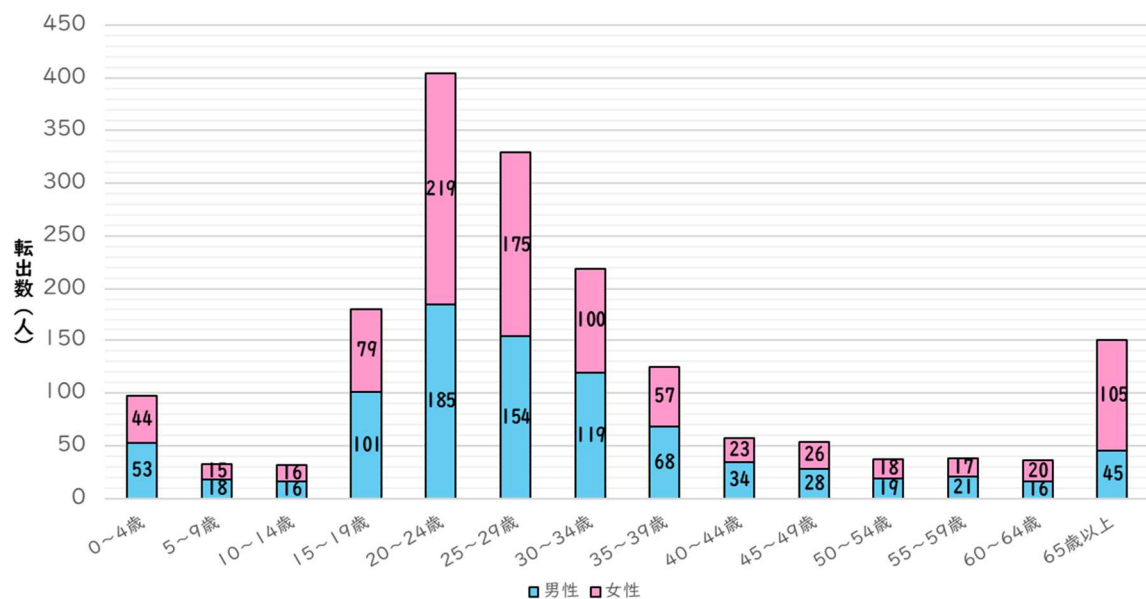


図 9 5 歳階級別転出数の状況

出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（令和 3～5 年合計）

(4) 合計特殊出生率の推移

図 10 に、合計特殊出生率※と出生数の推移を示します。合計特殊出生率は、令和 4（2022）年で 1.49 であり、佐賀県の数値（1.53）と比較すると低くなっています。推移をみると、平成 17（2005）年以降は緩やかに減少しており、平成 30（2018）年には 1.50 を下回っています。

出生数の推移をみると、平成 17（2005）年以降、増減の変動がみられるものの減少傾向にあり、令和 4（2022）年は 112 人となっています。

この背景には、子どもを産み育てる年代層そのものが少子化の影響を受けて減少していること、若者世代の町外転出などが考えられます。

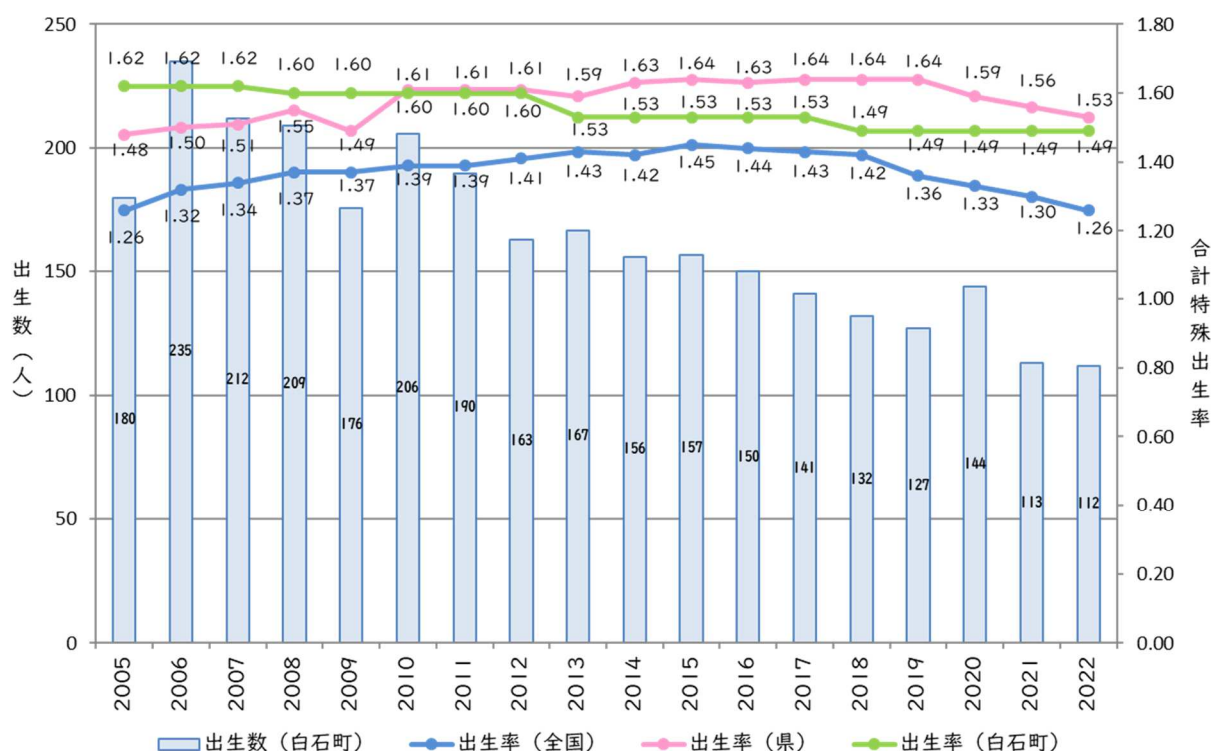


図 10 合計特殊出生率と出生数の推移

出典：人口動態統計

※合計特殊出生率：15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

2. 将来人口の推計と分析

(1) 将来人口推計と分析

1) 将来人口分析

図10に、社人研と地域活性化センターによる人口推計を示します。本町の人口は大幅に減少していくと推計されており、令和27(2045)年の人口推計は、社人研の推計では14,043人、地域活性化センターの推計では13,678人となっています。

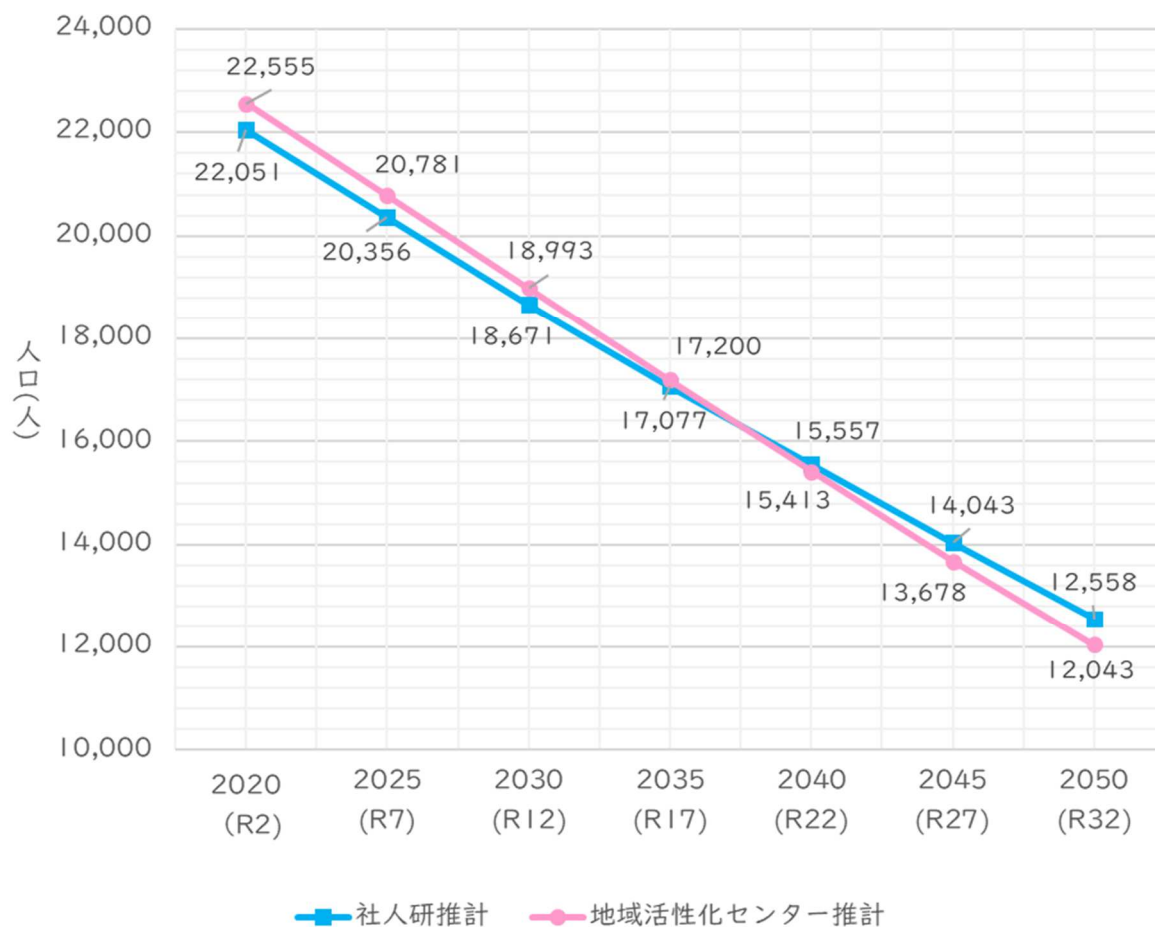


図11 社人研と地域活性化センターによる人口推計

※2020年の人口が異なるのは、社人研の推計は国勢調査、地域活性化センターの推計は住民基本台帳のデータを使用しているためです。

2) 人口構造の分析

表4に、各推計について、令和32(2050)年までの将来人口と年齢3区分(0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口、65歳以上の老年人口)別人口比率を示します。どちらの推計においても、年を追うごとに総人口に占める年少人口、生産年齢人口比率が低下し、老年人口比率が上昇しています。

表4 各推計における将来人口と年齢3区分別人口比率

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研推計	総人口(人)	22,051	20,356	18,671	17,077	15,557	14,043	12,558
	年少人口比率	11.8%	10.7%	9.6%	9.0%	8.7%	8.5%	8.3%
	生産年齢人口比率	51.9%	50.1%	48.5%	47.2%	45.5%	43.9%	42.3%
	老年人口比率	36.2%	39.2%	41.9%	43.9%	45.8%	47.6%	49.4%
地域活性化センター推計	総人口(人)	22,555	20,781	18,993	17,200	15,413	13,678	12,043
	年少人口比率	11.8%	10.4%	9.1%	8.2%	7.9%	7.5%	7.3%
	生産年齢人口比率	53.5%	51.8%	50.4%	49.4%	48.0%	46.8%	45.2%
	老年人口比率	34.8%	37.8%	40.5%	42.4%	44.2%	45.6%	47.4%

一方で、人口の減少段階は、年齢3区分別人口の推移により以下の3段階に分類されるとされています。

- ①老年人口が増加し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階
- ②老年人口が維持・微減(減少率が0%以上10%未満)し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階
- ③老年人口、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階

表5に、各推計における将来人口と年齢3区分別人口及び老年人口減少率を示します。これにより、令和2(2020)年までの白石町は「①老年人口が増加し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階」であったことがわかります。また、「②老年人口が維持・微減(減少率が0%以上10%未満)し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階」となるのは、社人研の推計では2025年、地域活性化センターの推計では2030年であることもわかります。

表5 各推計における将来人口と年齢3区分別人口及び老年人口減少率

		1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
国勢調査	総人口(人)	31,464	30,539	29,510	28,397	27,057	25,607	23,941
	年少人口比率	6,493	6,029	5,328	4,664	3,948	3,456	2,961
	生産年齢人口比率	19,942	18,866	17,555	16,432	15,509	14,572	13,226
	老年人口比率	5,029	5,644	6,627	7,295	7,534	7,577	7,745
	老年人口減少率	*	-12.2%	-17.4%	-10.1%	-3.3%	-0.6%	-2.2%
		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研推計	総人口(人)	22,051	20,356	18,671	17,077	15,557	14,043	12,558
	年少人口比率	2,610	2,181	1,791	1,532	1,355	1,194	1,041
	生産年齢人口比率	11,453	10,203	9,058	8,052	7,082	6,159	5,318
	老年人口比率	7,988	7,972	7,822	7,493	7,120	6,690	6,199
	老年人口減少率	-3.1%	0.2%	1.9%	4.2%	5.0%	6.0%	7.3%
地域活性化センター推計	総人口(人)	22,555	20,781	18,993	17,200	15,413	13,678	12,043
	年少人口比率	2,651	2,168	1,724	1,415	1,210	1,031	884
	生産年齢人口比率	12,064	10,762	9,578	8,489	7,392	6,407	5,449
	老年人口比率	7,840	7,851	7,691	7,297	6,811	6,241	5,710
	老年人口減少率	-1.2%	-0.1%	2.0%	5.1%	6.7%	8.4%	8.5%

出典：国勢調査

3. 人口の将来展望

(1) 現状と課題の整理

白石町の人口は減少し続けており、老年人口は社人研の推計では 2025 年、地域活性化センターの推計では 2030 年に減少に転じるとされています。

自然増減について、死亡者数が出生数を上回り続けており、かつ出生数が年々減少しているため、自然減が加速しています。また、社会増減については、転出者数が転入者数を上回る社会減が続いており、深刻な水準です。

また、年齢階層別にみると、20 代から 30 代前半までの転入者数が多いですが、同時に 10 代後半から 20 代までの転出者数が転入者数を上回ります。これは、10 代後半から 30 代前半までの世代で、進学や就職、結婚等による移動者数が多い傾向にあるためだと考えられます。

地域間の移動をみると、佐賀県内の他市町、福岡県への転出が多いです。

日本全体でみても白石町の人口減少は加速しています。少しでも早く効果的な施策を行うことが、人口減少を食い止めることにつながります。

(2) 目指すべき将来の方向

子どもや若者が魅力を感じ、将来も「住みたい、住み続けたい」、あるいは、白石町に「戻りたい、いずれは住んでみたい」と思うよう、雇用・教育環境の向上を実現し、深刻な人口減少を食い止める必要があります。また、新たに白石町の魅力を発信し、白石町にゆかりがなくても「住みたい、いずれは住んでみたい」と思うような施策の実施も必要です。

この目標に従い、以下の 5 つの方向性をしめします。

- 1) 本町にゆかりのある人の流入を促進し、流出を抑制する。**
- 2) 「働く」「遊ぶ」「学ぶ」「買う」を充実させ、本町にゆかりのない多様な人の流入を促進する。**
- 3) 新婚世帯や若年世帯を取り込み、出生数を増加させる。**
- 4) 老若男女が活躍し、かつ安心して暮らせるまちづくりに取り組む。**
- 5) シビックプライドの醸成に取り組み、流出の抑制・U ターンの促進につなげる。**

(3) 将来展望

白石町全体と各 8 小学校区において、①現状のまま推移した推計（外国人を含む）、目標として、地域の安定化のために②毎年 100 人を取り戻した場合の推計を行いました。「毎年 100 人を取り戻す」には、流入を促進することの他に、流出を抑制すること、出生数を増加させることも含まれます。②の取り戻しの想定条件は表 6 のとおりです。

表 6 取り戻しの想定条件

年齢階級	全体	白石	六角	須古	北明	福富	有明東	有明西	有明南
0～4歳	4.1	0.6	0.4	0.4	0.6	0.8	0.5	0.4	0.4
5～9歳	5.6	0.8	0.6	0.6	0.8	1.1	0.6	0.6	0.5
10～14歳	7.1	1	0.7	0.7	1	1.4	0.8	0.8	0.7
15～19歳	7.3	1	0.8	0.7	1	1.5	0.8	0.8	0.7
20～24歳	6.6	1	0.7	0.7	0.9	1.3	0.7	0.7	0.6
25～29歳	5.7	0.8	0.6	0.6	0.8	1.1	0.6	0.6	0.6
30～34歳	6.1	0.9	0.6	0.6	0.9	1.2	0.7	0.6	0.6
35～39歳	7.4	1.1	0.8	0.7	1	1.5	0.8	0.8	0.7
40～44歳	8.8	1.3	0.9	0.9	1.2	1.7	1	0.9	0.9
45～49歳	8.9	1.3	0.9	0.9	1.2	1.8	1	1	0.8
50～54歳	9.8	1.4	1	1	1.4	2	1.1	1	0.9
55～59歳	10.5	1.5	1.1	1	1.5	2.1	1.2	1.1	1
60～64歳	12.1	1.8	1.2	1.2	1.7	2.4	1.3	1.3	1.2
合計	100	14.5	10.3	10	14	19.9	11.1	10.6	9.6

この条件は、令和 6（2024）年 6 月 30 日時点の人口比に応じて 0 歳から 64 歳までの各年齢階級に割り振っています。各小学校の割り振りも同様です。

1) 白石町全体の現状と人口推移 ～現状推移とシミュレーション～

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図12に、白石町の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025年と2065年を比較すると、総人口は20,781人が8,014人となり、12,767人減少する推計です。年少人口は2,168人から549人、生産年齢人口は10,762人から3,437人となり、高齢化率は50%まで上昇します。

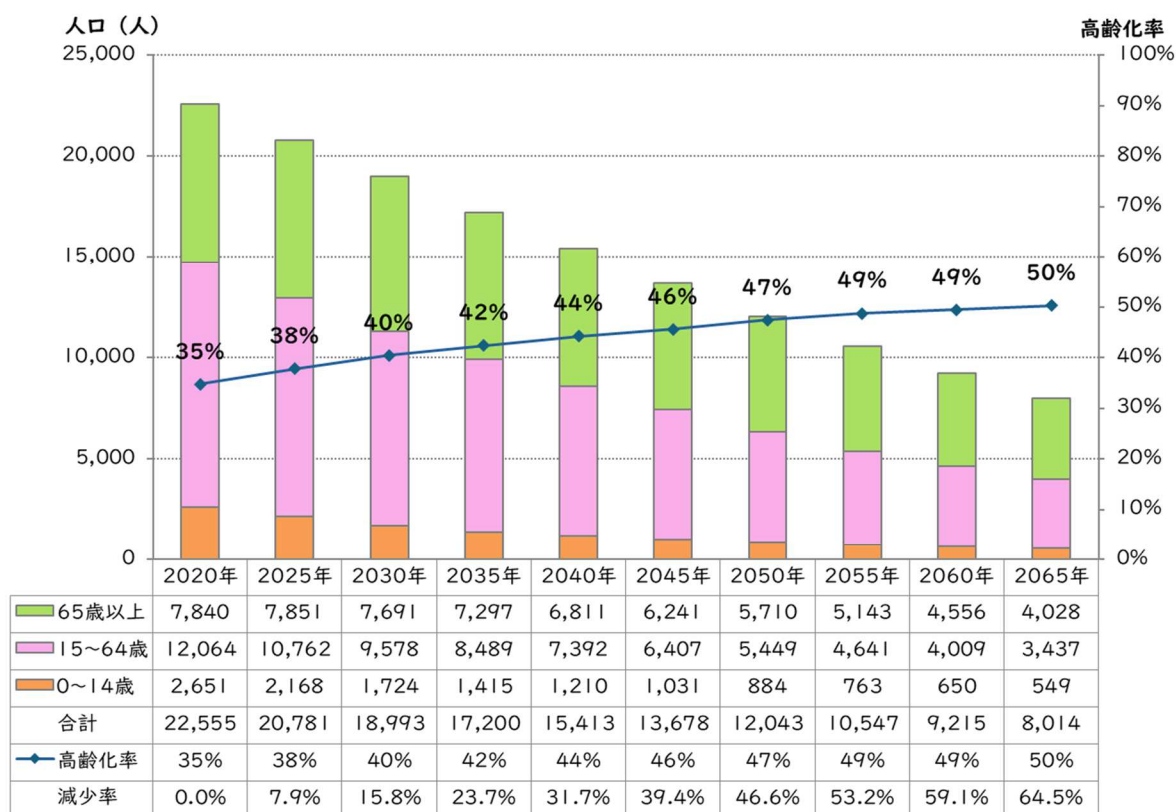


図12 白石町の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 13 に、毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。この条件を毎年達成した場合、2065 年には、総人口が 11,791 人となり、現状推移での同年推計 8,014 人を 3,777 人上回る推計です。年少人口は 1,018 人（同年での現状推移推計 549 人、+469 人）、生産年齢人口は 5,710 人（同年での現状推移推計 3,437 人、+2,273 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 55%から 7 ポイント改善し、43%となります。

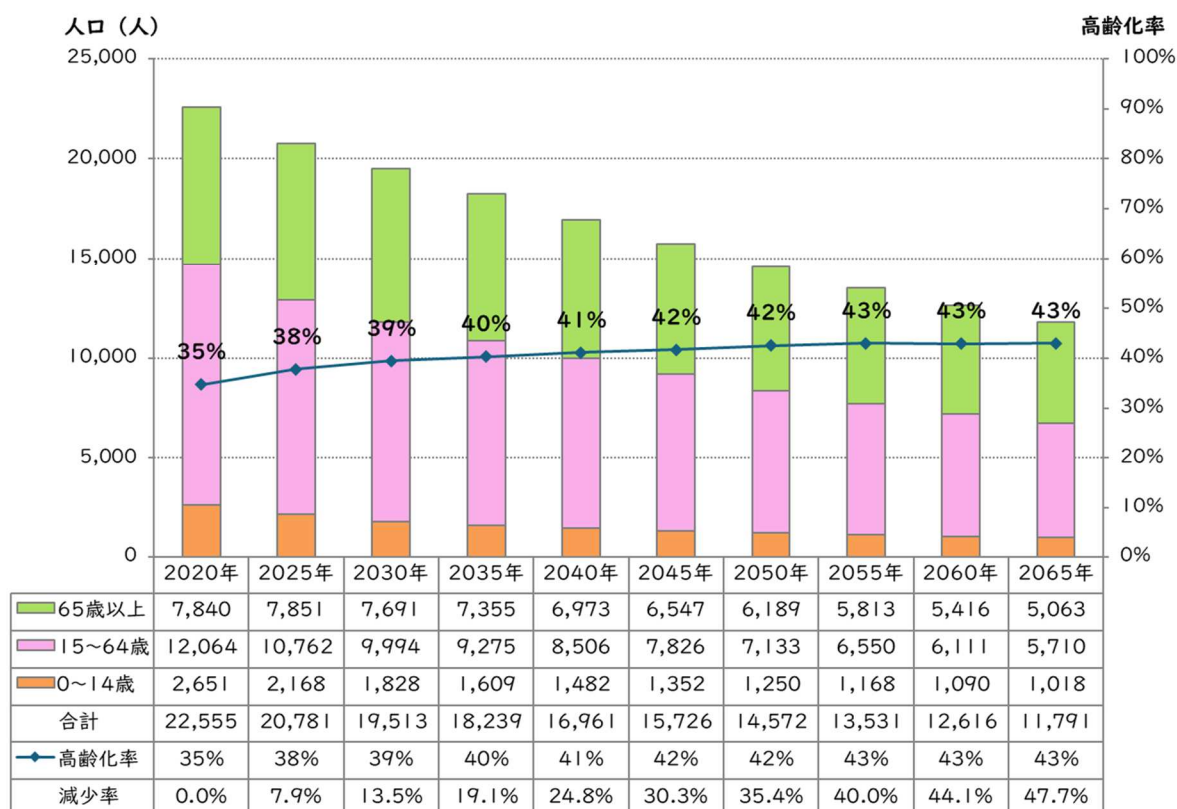


図 13 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（白石町）

推計：地域活性化センター

2) 小学校区別の現状と人口推移の見通し ～現状推移とシミュレーション～

【白石小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図14に、白石小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025年と2065年を比較すると、地域人口は3,010人が2,299人となり、711人減少する推計です。年少人口は361人から204人、生産年齢人口は994人から772人となり、高齢化率は34%とわずかに上昇します。

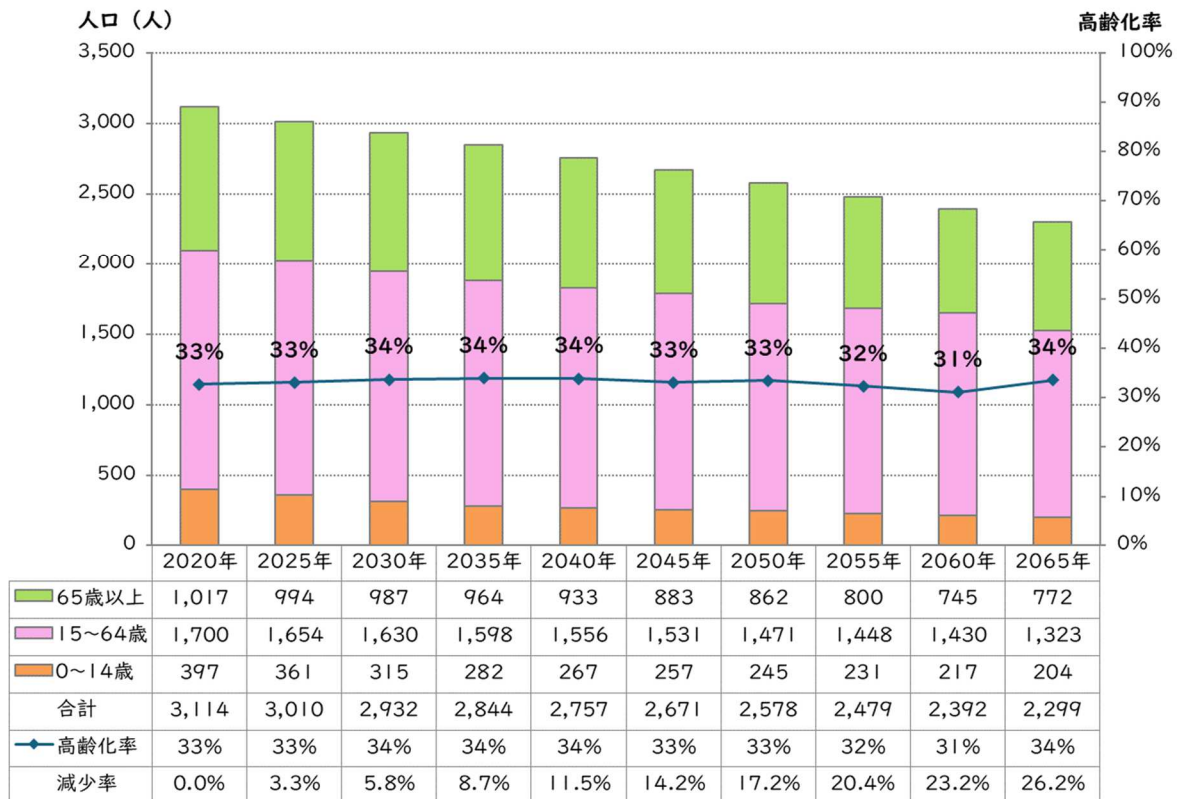


図14 白石小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 15 に、毎年 100 人（白石小学校区では 14.5 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

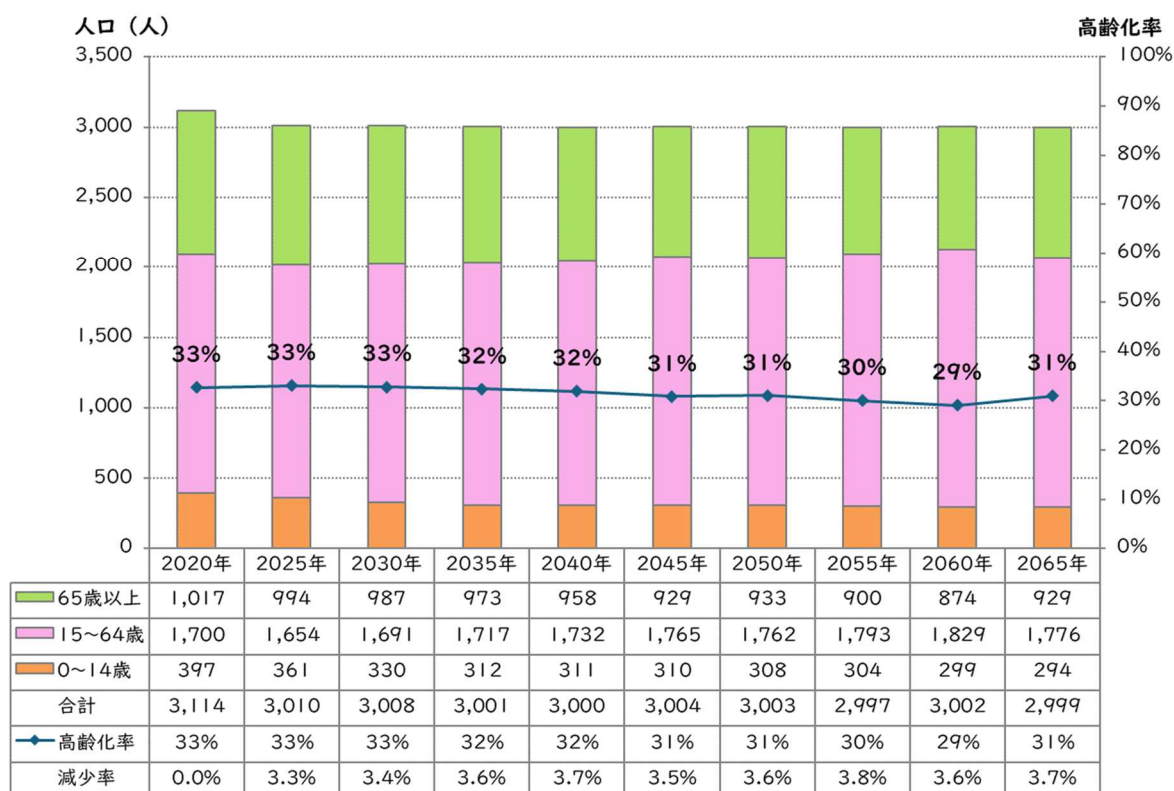


図 15 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（白石小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 2,999 人となり、現状推移での同年推計 2,299 人を 700 人上回る推計です。年少人口は 294 人（同年での現状推移推計 204 人、+90 人）、生産年齢人口は 1,776 人（同年での現状推移推計 1,323 人、+453 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 34%から 3 ポイント改善し、31%となります。

【六角小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図16に、六角小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025年と2065年を比較すると、地域人口は2,132人が1,097人となり、1,035人減少する推計です。年少人口は235人から87人、生産年齢人口は1,153人から526人となり、高齢化率は44%まで上昇します。

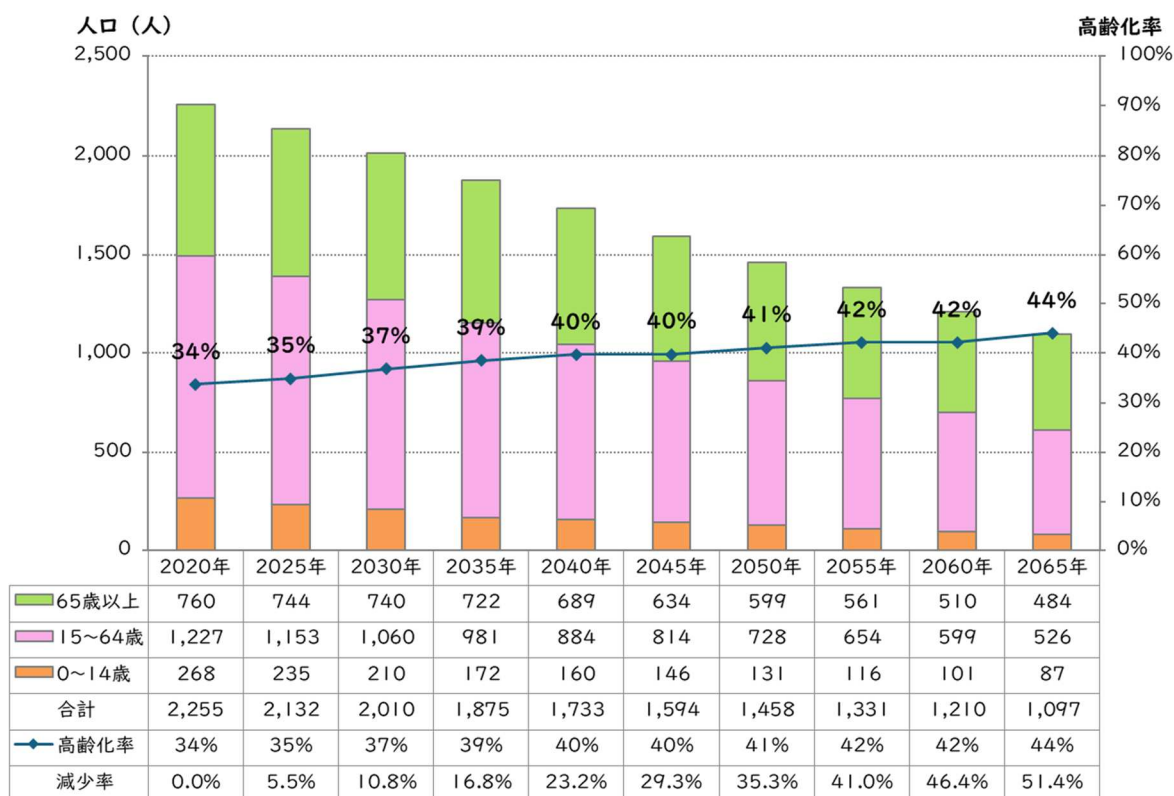


図16 六角小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 17 に、毎年 100 人（六角小学校区では 10.3 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

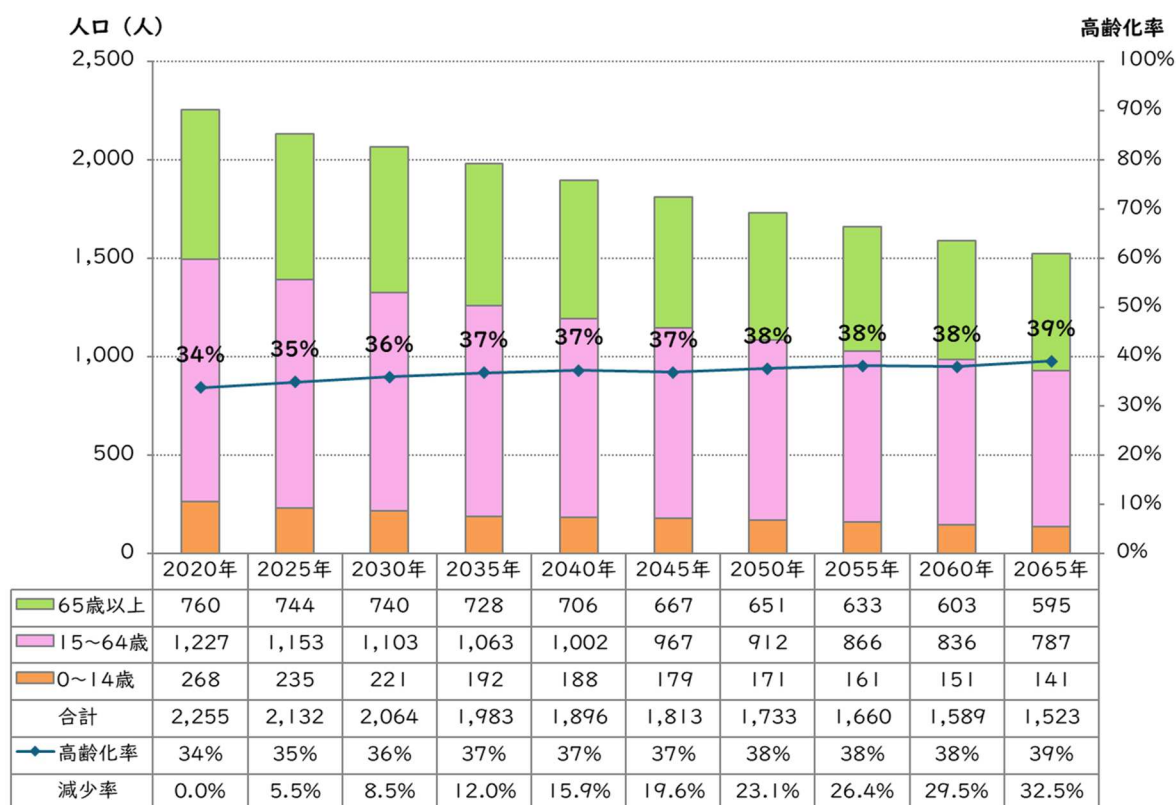


図 17 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（六角小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 1,523 人となり、現状推移での同年推計 1,097 人を 426 人上回る推計です。年少人口は 141 人（同年での現状推移推計 87 人、+54 人）、生産年齢人口は 787 人（同年での現状推移推計 526 人、+261 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 44%から 5 ポイント改善し、39%となります。

【須古小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図18に、須古小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025年と2065年を比較すると、地域人口は2,068人が578人となり、1,490人減少する推計です。年少人口は189人から31人、生産年齢人口は1,002人から180人となり、高齢化率は63%まで上昇します。

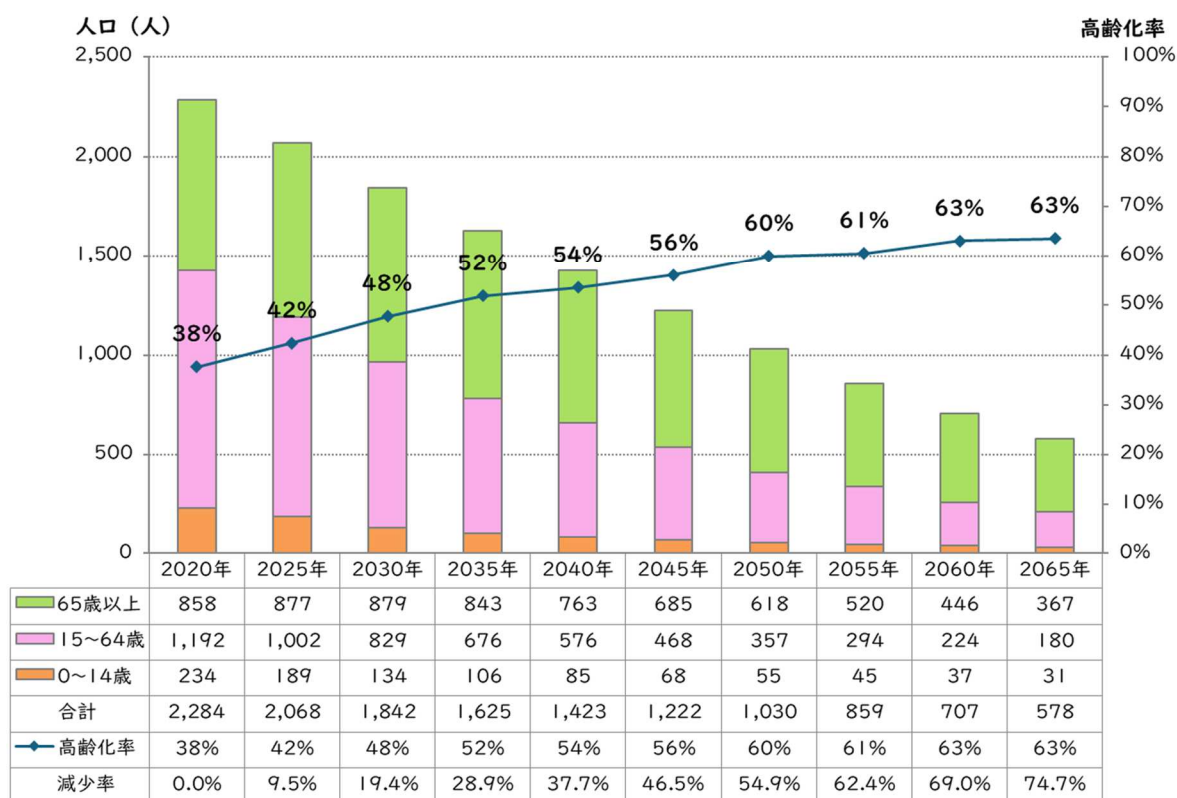


図18 須古小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 19 に、毎年 100 人（須古小学校区では 10 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

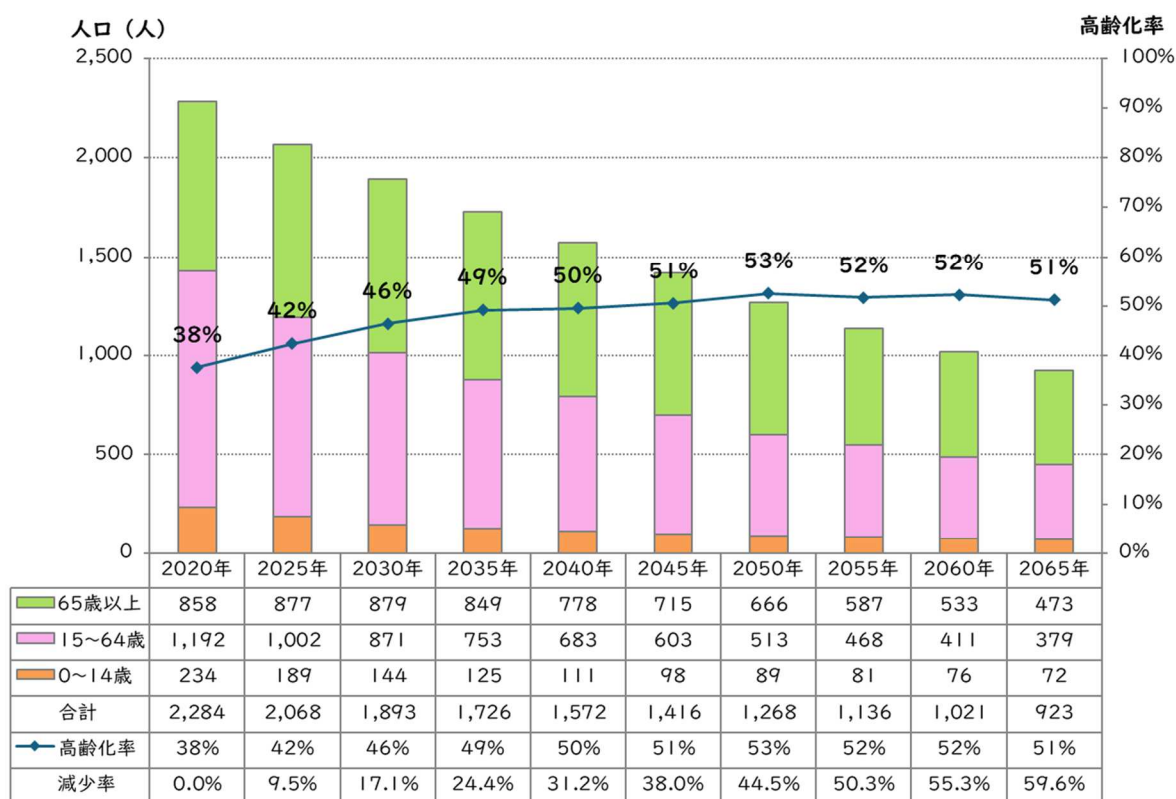


図 19 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（須古小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 923 人となり、現状推移での同年推計 578 人を 345 人上回る推計です。年少人口は 72 人（同年での現状推移推計 31 人、+41 人）、生産年齢人口は 379 人（同年での現状推移推計 180 人、+199 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 63%から 12 ポイント改善し、51%となります。

【北明小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図 20 に、北明小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025 年と 2065 年を比較すると、地域人口は 2,893 人が 808 人となり、2,085 人減少する推計です。年少人口は 246 人から 47 人、生産年齢人口は 1,491 人から 325 人となり、高齢化率は 54%まで上昇します。

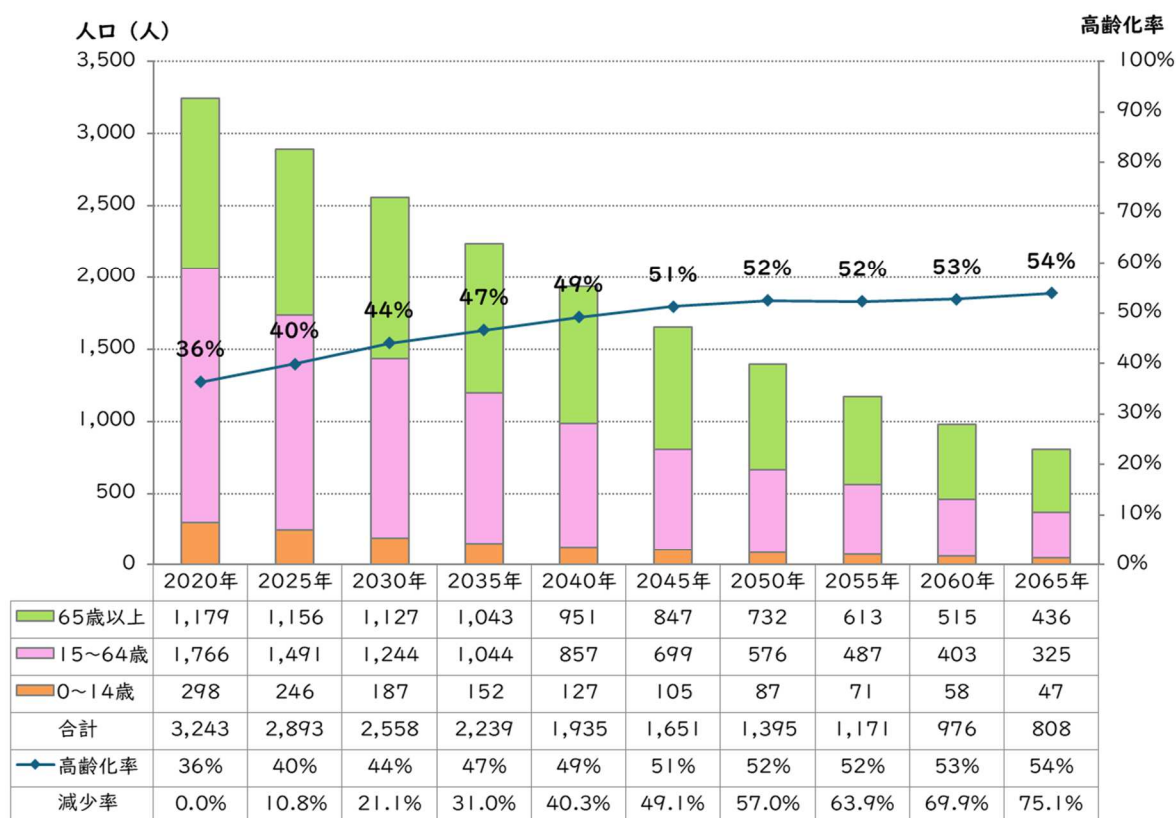


図 20 北明小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 21 に、毎年 100 人（北明小学校区では 14 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

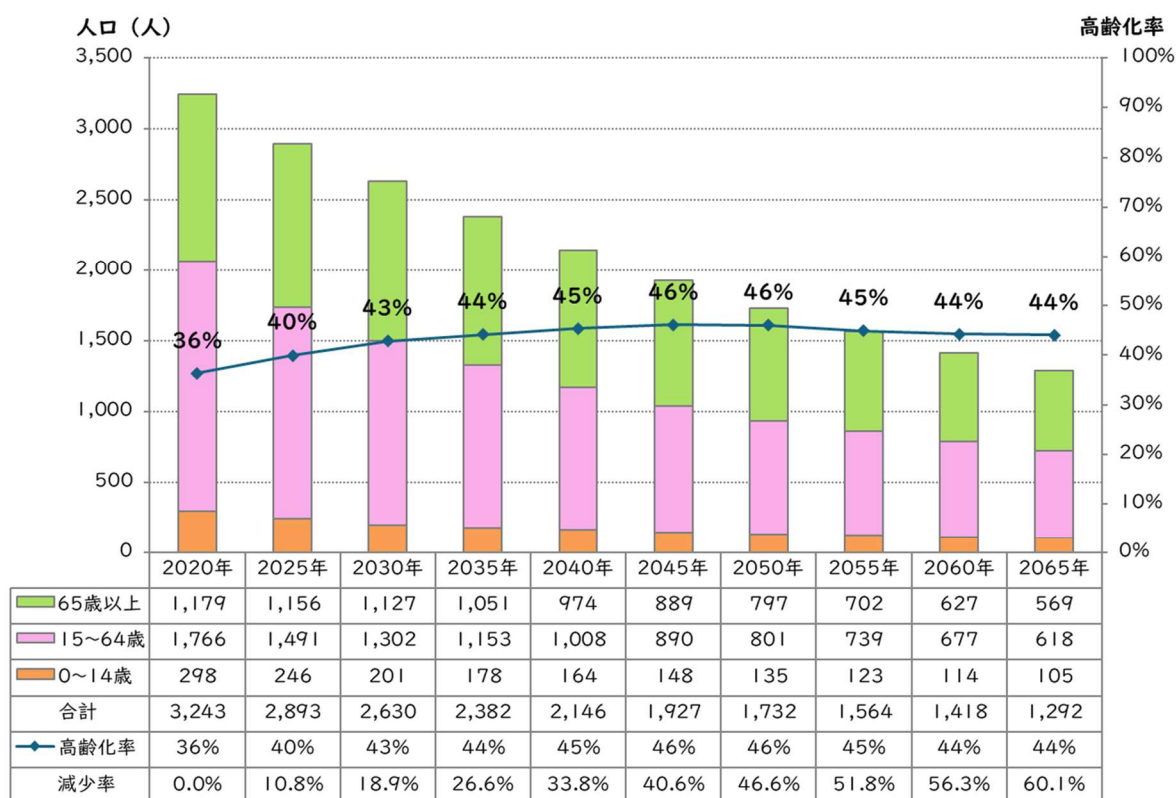


図 21 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（北明小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 1,292 人となり、現状推移での同年推計 808 人を 484 人上回る推計です。年少人口は 105 人（同年での現状推移推計 47 人、+58 人）、生産年齢人口は 618 人（同年での現状推移推計 325 人、+293 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 54%から 10 ポイント改善し、44%となります。

【福富小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図 22 に、福富小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025 年と 2065 年を比較すると、地域人口は 4,145 人が 1,360 人となり、2,785 人減少する推計です。年少人口は 265 人から 82 人、生産年齢人口は 2,082 人から 506 人となり、高齢化率は 57%まで上昇します。

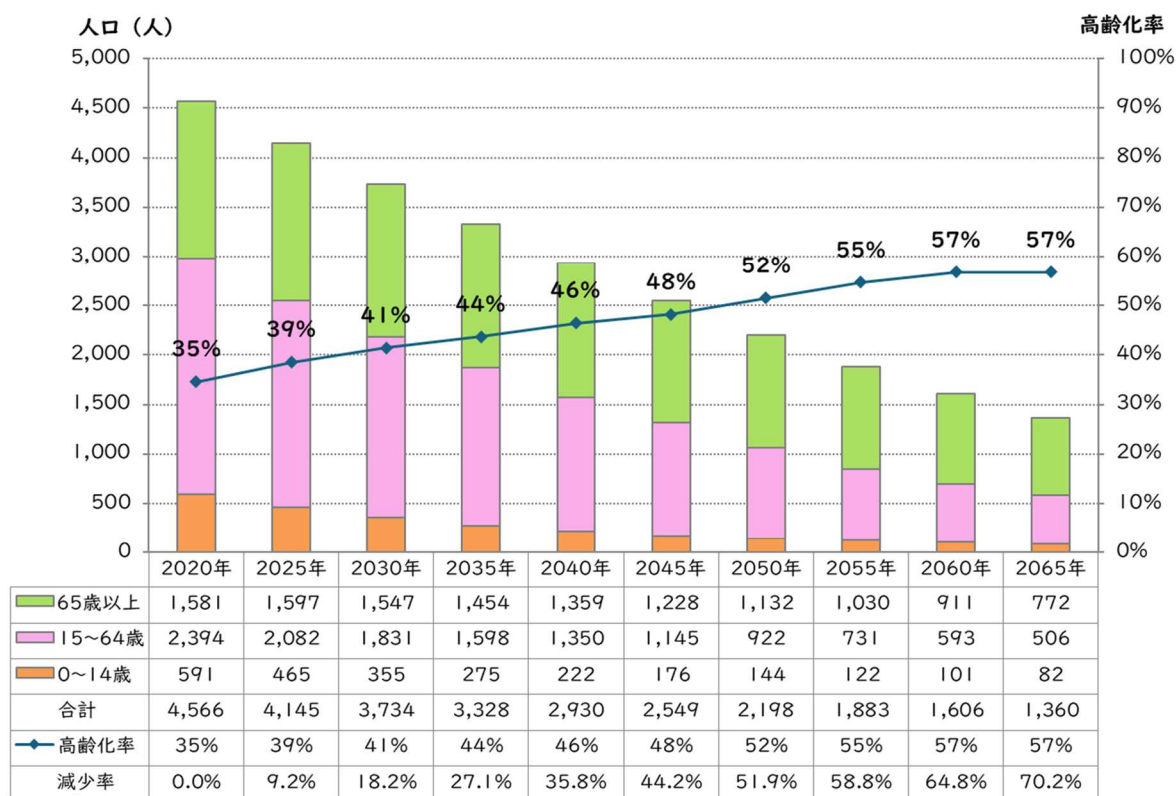


図 22 福富小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 23 に、毎年 100 人（福富小学校区では 19.9 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

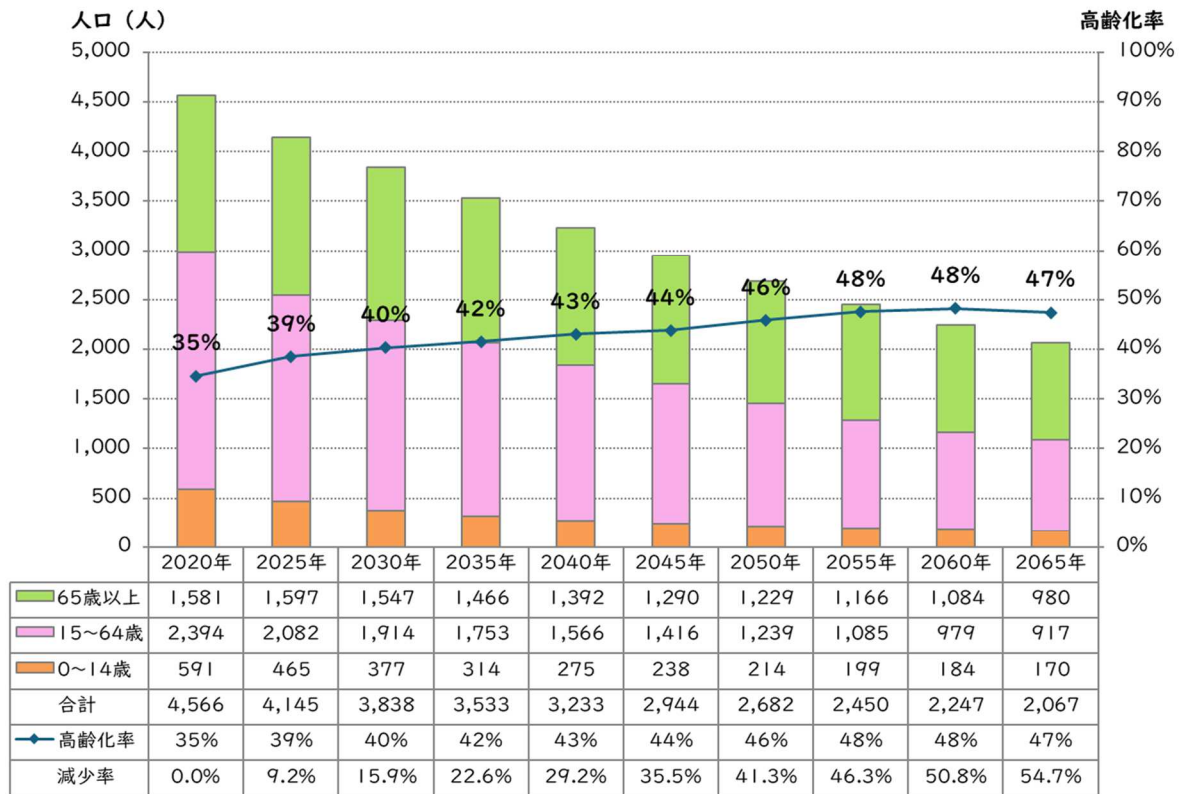


図 23 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（福富小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 2,067 人となり、現状推移での同年推計 1,360 人を 707 人上回る推計です。年少人口は 170 人（同年での現状推移推計 82 人、+88 人）、生産年齢人口は 917 人（同年での現状推移推計 506 人、+411 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 57%から 10 ポイント改善し、47%となります。

【有明東小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図 24 に、有明東小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025 年と 2065 年を比較すると、地域人口は 2,293 人が 708 人となり、1,585 人減少する推計です。年少人口は 246 人から 50 人、生産年齢人口は 1,141 人から 252 人となり、高齢化率は 57%まで上昇します。

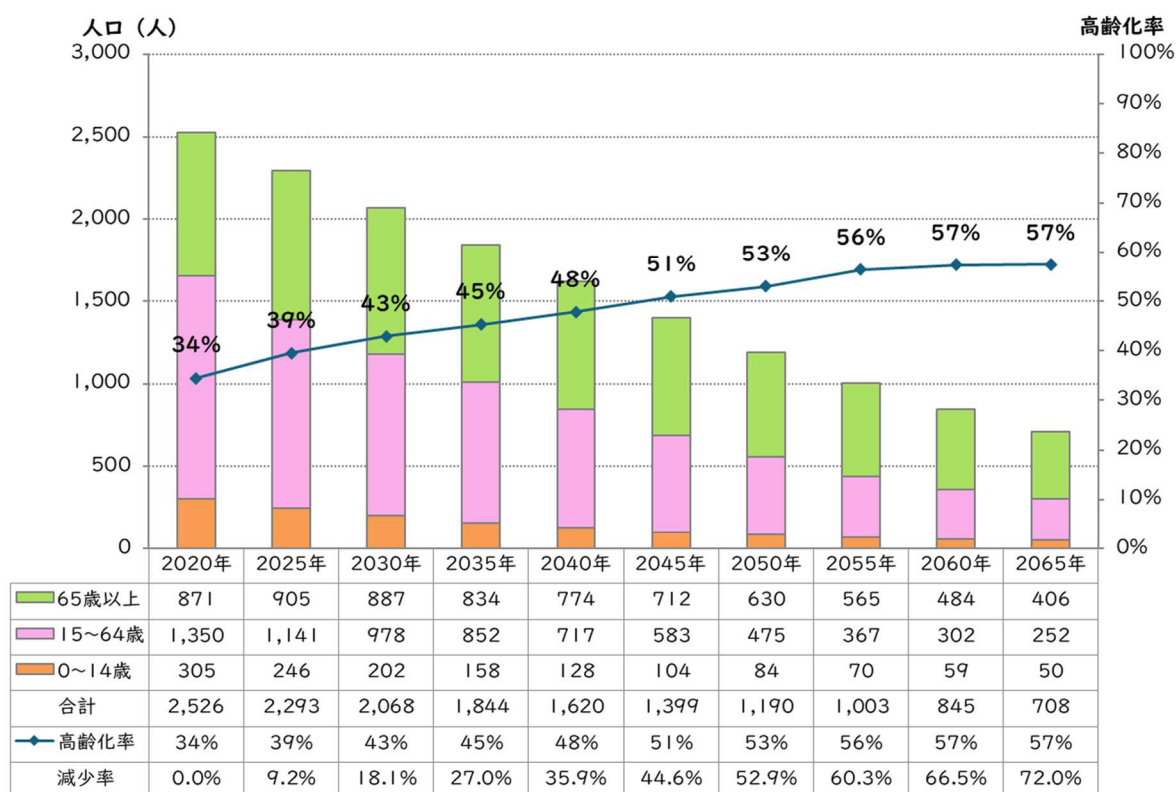


図 24 有明東小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 25 に、毎年 100 人（有明東小学校区では 111.1 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

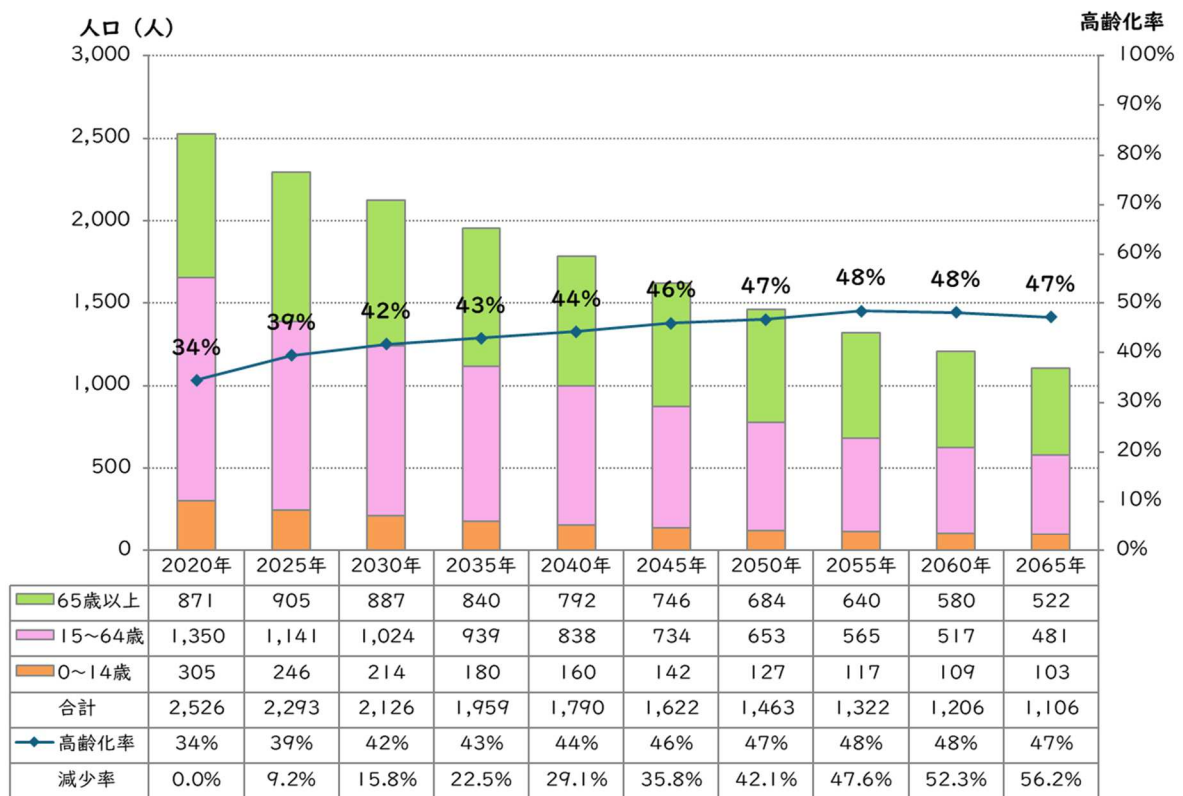


図 25 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（有明東小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 1,106 人となり、現状推移での同年推計 708 人を 398 人上回る推計です。年少人口は 103 人（同年での現状推移推計 50 人、+53 人）、生産年齢人口は 481 人（同年での現状推移推計 252 人、+229 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 57%から 10 ポイント改善し、47%となります。

【有明西小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図 26 に、有明西小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025 年と 2065 年を比較すると、地域人口は 2,239 人が 1,097 人となり、1,142 人減少する推計です。年少人口は 233 人から 70 人、生産年齢人口は 1,179 人から 505 人となり、高齢化率は 48%まで上昇します。

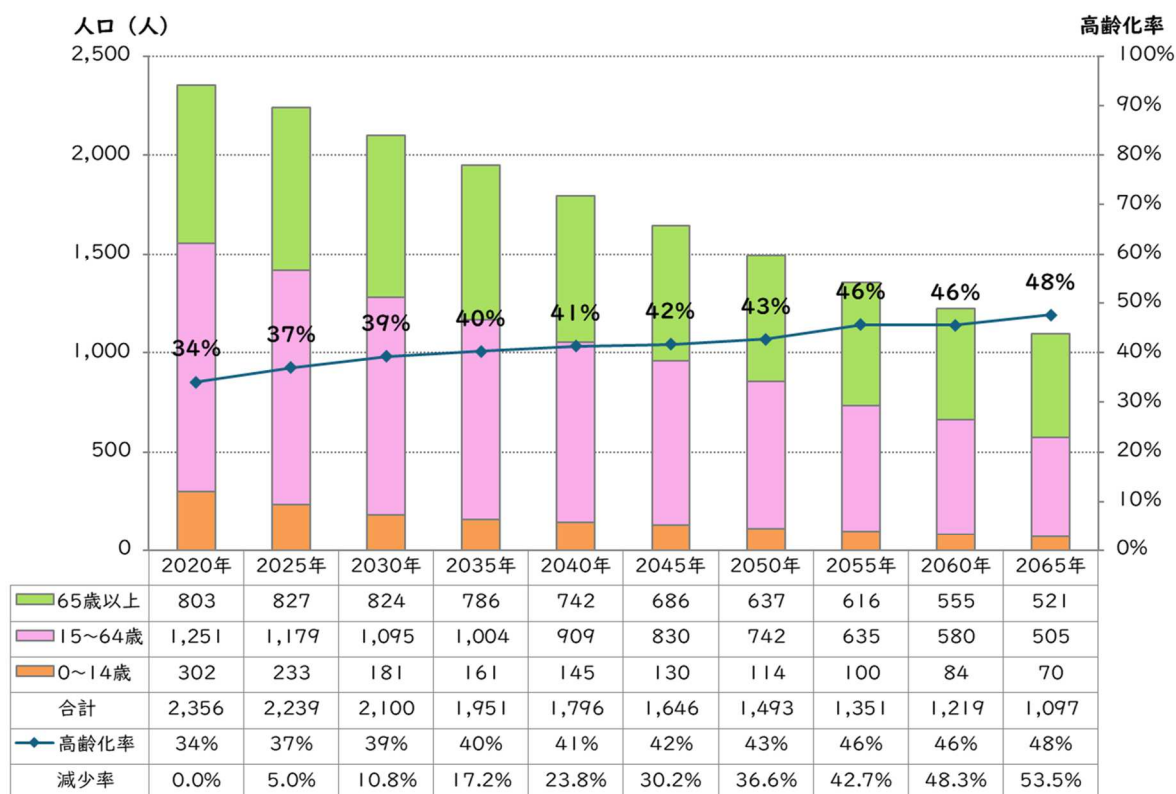


図 26 有明西小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 27 に、毎年 100 人（有明西小学校区では 10.6 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

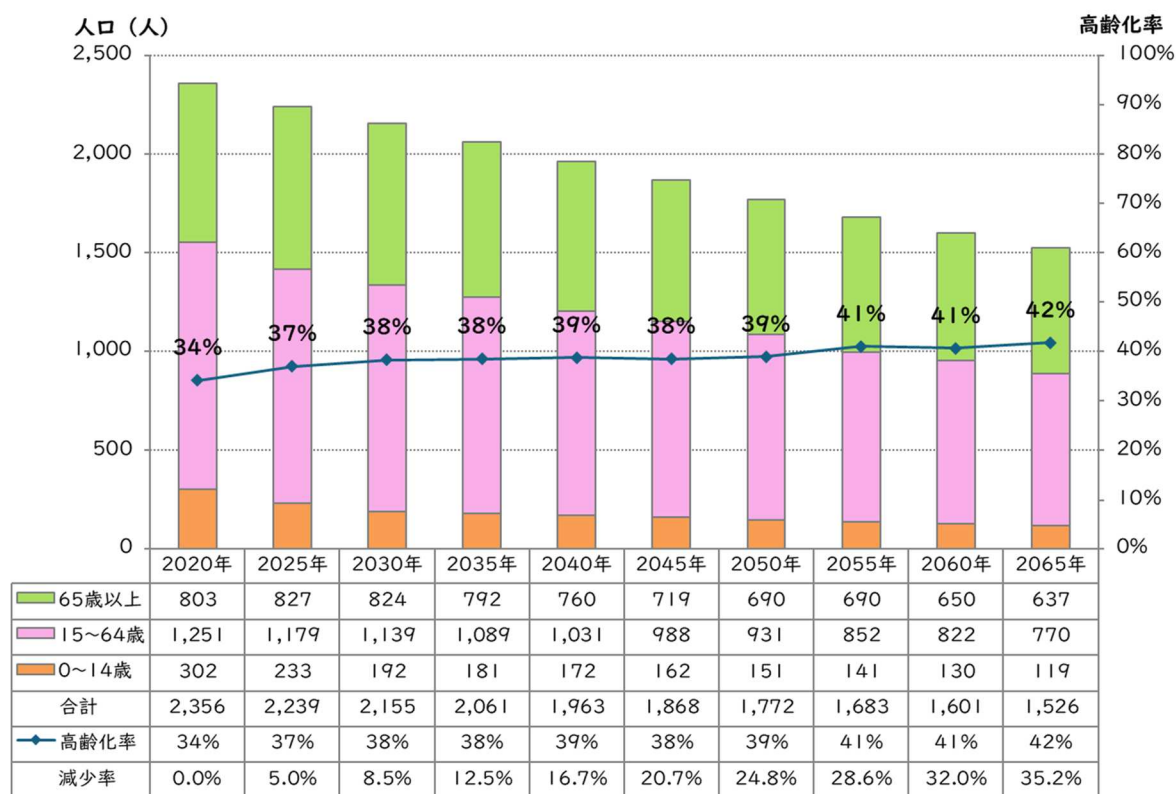


図 27 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（有明西小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 1,526 人となり、現状推移での同年推計 1,097 人を 429 人上回る推計です。年少人口は 119 人（同年での現状推移推計 70 人、+49 人）、生産年齢人口は 770 人（同年での現状推移推計 505 人、+265 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 48%から 6 ポイント改善し、42%となります。

【有明南小学校区】

①現状のまま推移した推計（外国人を含む）

図 28 に、有明南小学校区の人口の現状推移と高齢化率を示します。現在の流出入状況で推移した場合、2025 年と 2065 年を比較すると、地域人口は 2,016 人が 693 人となり、1,323 人減少する推計です。年少人口は 197 人から 32 人、生産年齢人口は 753 人から 367 人となり、高齢化率は 53%まで上昇します。

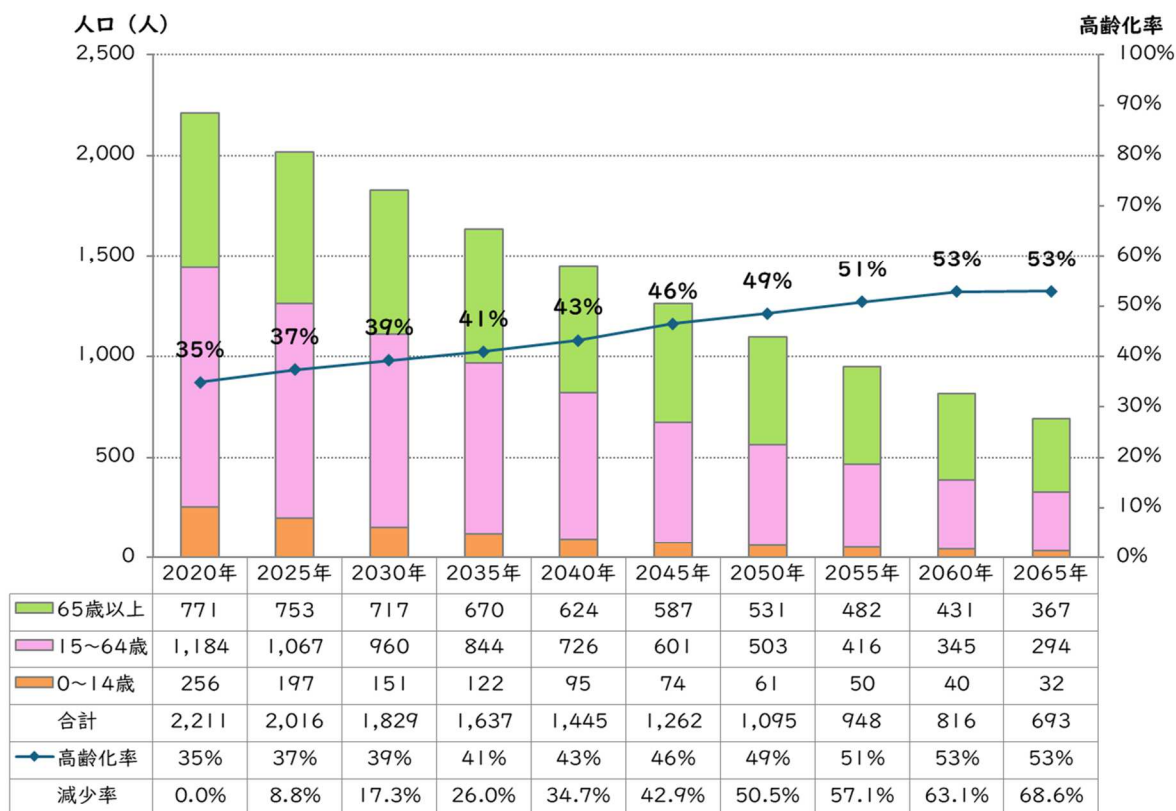


図 28 有明南小学校区の人口の現状推移と高齢化率

推計：地域活性化センター

②毎年 100 人を取り戻した場合の推計

図 29 に、毎年 100 人（有明南小学校区では 9.6 人）を取り戻した場合の人口推移シミュレーション結果を示します。

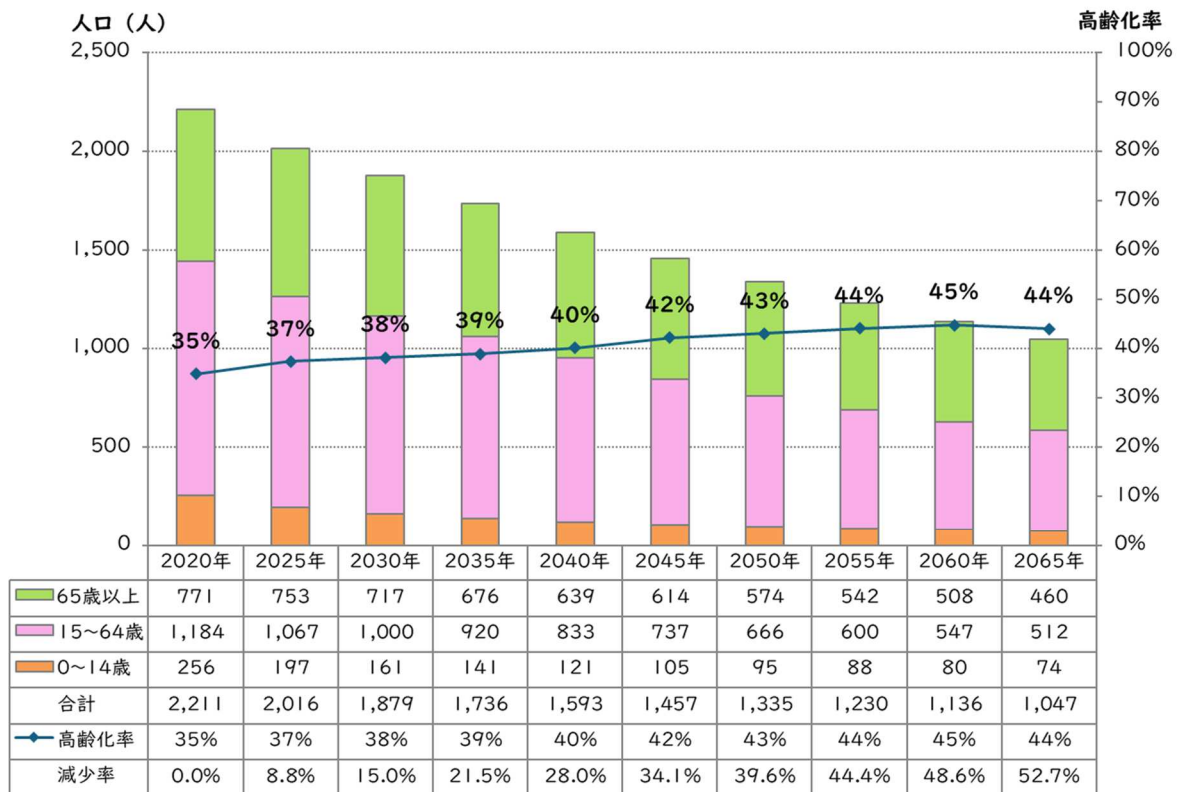


図 29 毎年 100 人を取り戻した場合の人口推移と
高齢化率のシミュレーション（有明南小学校区）

推計：地域活性化センター

この条件を毎年達成した場合、2065 年には、地域人口が 1,047 人となり、現状推移での同年推計 693 人を 354 人上回る推計です。年少人口は 74 人（同年での現状推移推計 32 人、+42 人）、生産年齢人口は 512 人（同年での現状推移推計 294 人、+218 人）となります。また、高齢化率は現状推移での推計である 53%から 9 ポイント改善し、44%となります。

○補足

【社人研の推計】

○推計方法：コーホート要因法

基本的な属性である性別・年齢別のある年の人口を基準として、出生・死亡・移動に関する将来の仮定値を当てはめて将来人口を推計する方法。広範囲の推計をするのに適している。

○出生に関する仮定

子ども女性比及び0～4歳性比の仮定値を使用。

【地域活性化センターの推計】

○推計方法：コーホート変化率法

性別・年齢別の基準年及び5年前の人口から変化率を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。小規模地域の推計をするのに適している。

○出生に関する仮定

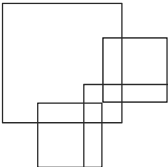
現在の合計特殊出生率のまま推移すると仮定。

○参考

白石町の人口推移

西暦	和暦	総人口
1960年	昭和35年	40,203
1965年	昭和40年	36,878
1970年	昭和45年	34,694
1975年	昭和50年	31,974
1980年	昭和55年	31,790
1985年	昭和60年	31,464
1990年	平成2年	30,539
1995年	平成7年	29,510
2000年	平成12年	28,397
2005年	平成17年	27,057
2010年	平成22年	25,607
2015年	平成27年	23,941
2020年	令和2年	22,051

出典：国勢調査



発行：白石町

編集：白石町役場 総合戦略課白石創生推進係

〒849-1192

佐賀県杵島郡白石町大字福田 1247-1

TEL 0952-84-7132（総合戦略課直通）

FAX 0952-84-6611

